



(一)横浜港湾福利厚生協会
シンボルマーク
(昭和52年11月制定)
福利厚生(welfare)の頭
文字Wをデザインしました

厚生ニュース

はまかぜ

平成30年1月1日

第76号

一般社団法人 横浜港湾福利厚生協会

横浜市中区山下町277-1

☎045(681)6751

http://www.y-port-kousei.or.jp

発行責任者 倉林 恒人

編集責任者 豊田 均

印刷所 神奈川新聞社

〈本紙は再生紙を利用しています〉

迎春



会長

藤本 幸史

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は当協会の事業運営につきまして、会員の皆さまをはじめ、関係官公庁、各団体、業界のひたかたならぬご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。

さて、当協会は、昨年の十一月一日に創業六十周年を迎えることができました。

当協会が創業以来、順調に進展することができましたのも、ひとえに皆さまのご支援とご協力によるものであります。

ここで改めて厚く御礼申し上げます。

今後とも横浜のミナトで働く方々の福利厚生面での充実を図るため、住宅、食堂、給食(弁当)、売店、会議室の管理運営等各種事業の推進に、より一層努めて参りますので、変わらぬご支援と指導を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆さまや横浜港で働く方々並びに関係者のますますのご発展とご健勝を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。



写真提供：横浜市港湾局

謹賀新年

横浜港運協会	横浜検数検定部会	全横浜港湾労働組合連合会
横浜エゼント会	横浜港運関連事業協会	横浜港湾労働組合連合会
横浜回漕協会	全日本ワッチマン業協会関東支部	全日本港湾労働組合関東地方横浜支部
横浜港湾荷役協会	神奈川倉庫協会	横浜港沿岸労働組合連合会
京濱海運貨物取扱同業会	横浜船主会	日本検定労働組合横浜地方連合
		横浜検数労働組合連合会

創業六十周年記念講演会・記念式典

当協会は、昭和三十二年の創業以来、おかげさまで昨年の十一月一日をもって創業六十周年を迎えました。

港湾関係者の皆様方のこれまでのご支援とご協力に心より感謝するとともに、創業六十周年を記念して、平成二十九年十月三十一日にロイヤルホールヨコハマにて記念講演会及び記念式典を開催いたしました。

第一部の記念講演会では、当協会の藤木幸夫会長が「これからの横浜港」をテーマに約一時間三十分にあたり、戦時中から現在に至るまでの横浜港の歴史について、当時の世相や文化を振り返りつつ、ご自身の体験を交えながらお話ししていただきました。また、海運業界をめぐるアライアンスの再編、国策会社（横浜川崎国際港湾株式会社）の誕生、今後の横浜港の展望についても語っていただくなど、大変貴重な講演会となりました。

当日は、約三五〇名の方が参加され、熱心に藤木会長の講演に聞き入っていました。

第二部の記念式典では、神奈川県知事 黒岩祐治様、横浜市長 林文字様（代読 副市長 平原敏英様）より祝辞をいただき、また、永年に渡り、当協会の活動に貢献いただいた現・旧役員



講演する藤木会長



記念講演会

二十三名への表彰を行い、代表として飯泉牧太郎副会長へ記念品と感謝状が贈呈されました。

その後、関東運輸局長 河田守弘様の乾杯の発声のもと祝賀会を行い、六十周年にふさわしい盛大な記念式典となりました。今後とも横浜のミナトで働く方々の福利厚生面での充実を図るため、社員一同業務に努めて参りますので、変わらぬご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



永年在任役員表彰



永年在任役員被表彰者

永年在任役員被表彰者

(敬称略)

- | | |
|-------|--------|
| 会長 | 藤木 幸夫 |
| 副会長 | 飯泉 牧太郎 |
| 元会長 | 藤木 幸太 |
| 元副会長 | 小此木 歌藏 |
| 元常任理事 | 井上 隆 |
| 元理事 | 飯泉 勝也 |
| 元常任理事 | 黒澤 芳徳 |
| 元理事 | 笹田 照近 |
| 元常任理事 | 鈴木 孝裕 |
| 元理事 | 鈴木 誠一 |
| 元常任理事 | 長谷川 元 |
| 元理事 | 原田 龍次郎 |
| 元常任理事 | 柏木 公廣 |
| 元理事 | 酒井 英治 |
| 元常任理事 | 坂田 薫 |
| 元理事 | 徳里 則之 |
| 元常任理事 | 牧野 克彦 |
| 元理事 | 遠藤 一幸 |
| 元常任理事 | 黒田 幸男 |
| 元理事 | 鈴木 昇 |
| 元常任理事 | 野口 正剛 |
| 元理事 | 若山 重雄 |
| 元常任理事 | 田端 肇 |

第五十四回 横浜港関係者合同慰霊祭

平成二十九年十月二日(月)

午後二時から、久保山霊堂にて、横浜港関係者合同慰霊祭を執り行いました。

合同慰霊祭は、横浜港の発展に貢献されながら事故や病で亡



主催者挨拶

くなられた方々の霊を慰めるため、関東運輸局をはじめ関係官庁、関係団体、労働組合等のご協力を得て、毎年執り行っております。今年度は、横浜港関係者・ご遺族をあわせ、約四百名の方がご参列くださいました。

第五十四回となる今年度は、公傷一柱と私傷病六柱の七柱を合祀し、第一回からの合祀者数は、二千九百一柱になりました。

今日、横浜港が世界有数の国際貿易港として繁栄しているのは、数多くの港湾関係者の尽力と犠牲によって築かれたものといっても過言ではありません。改めて、港に命を捧げられた方々のご冥福をお祈りし、ご尽力に心より感謝いたします。

はまかせ 診療所

第67回 C型肝炎の治療について

本牧港湾診療所 本橋 郁子先生

日本における肝癌の原因の約六五％はC型肝炎といわれています。

適切に治療をしないと、約七〇％の割合でウイルスが排除されず、持続性感染に移行し、慢性化するといわれています。慢性肝炎は二十年の経過で約三〇〜四〇％が肝硬変に進行し、そのうち約七〇％が肝癌を合併するといわれています。

C型肝炎のウイルスの遺伝子の特徴によりに分類され、日本人の場合は、1b型が約七〇％、2a型が約二〇％、2b型が一〇％となっており、1a型はほとんどみられません。

最近では、インターフェロンを使用しない経口薬のみのインターフェロンフリー療法が主流となっています。

C型肝炎ウイルスを除去し、感染からの治療を目指す治療法として、経口薬のみのインターフェロンフリー療法と注射と経口薬を組み合わせたインターフェロン療法があります。

最近では、インターフェロンを使用しない経口薬のみのインターフェロンフリー療法が主流となっています。

遺伝子型(ジェノタイプ)で薬の内容が異なりますが、一日一錠を十一週間続けることで、ほぼ一〇〇％ウイルスを排除することが出来ます。ほぼ一〇〇％治療することが出来るのです。副作用もほとんどありません。

また、医療費助成制度が使えるため、自己負担限度額は二万円と上限が決められています。

第二十六回

横浜港大運動会

平成二十九年十一月五日(日)

に大黒ふ頭グラウンドにて、第二十六回横浜港大運動会が開催されました。

当日は気持ちの良い秋空のもと大勢の港湾関係者とその家族が集まり、競技に汗を流しました。

グラウンドには、家族や職場の仲間の応援により終始熱気で包まれていました。

家族や職場の仲間とも親交を深めることができ、良い思い出になったことと思います。



綱引きの様子

ボウリング大会のお知らせ

毎年、港で働く人たちの親睦を深める目的で全横浜港湾関係労働組合協議会が主催して行われるボウリング大会が、今年は二月十八日(日)に開催される予定です。

参加希望の方は、四名一組でお電話にて申込下さい。皆様のご参加をお待ちしております。

【問合せ先】
全横浜港湾関係労働組合協議会
☎〇四五(一一一)一六六一